

「道の駅やいた」に行こう

平成23年4月、「道の駅やいた」がオープンしました。東日本大震災の影響で当初の予定から約一カ月遅れのスタートとなりました。一年が経過し、農産物直売所とレストランの売り上げは、当初の予想を上回る好調な滑り出しを見せています。

多くの市民が関わり、市内外からはもちろん県外からも多くの人が訪れている「道の駅やいた」。

今号では、その魅力に迫ります。

道の駅やいたとは

県内で19番目の道の駅として、平成23年4月29日にオープンしました。市文化会館を始めとする公共施設が集まる、市のほぼ中央に位置しています。隣接する主要地方道矢板那須線は、県北地域を縦断する地域の産業・観光・日常生活を支える重要な道路であり、本市の交流拠点として高い可能性を秘めている場所と言えます。

「地産地消」がコンセプト

県内で決して早くできたほうではないこの道の駅が、ほかの道の駅に対抗するためにはどうしたらよいか。多くの検討を重ねた結果、たかはら山の山懐に抱かれた素晴らしい自然環境で育ったお米や、四季折々の野菜のおいしさを誠実に伝えていくことが、最大の武器になるとの結論になりました。そのような理由から「農産物直売所



宇都宮市 真島さん 田代さん
ツーリングの途中です。会社の同僚にりんごのソフトクリームがおいしいと聞いたので食べにきました。

1周年記念スペシャルウィークにご来場いただいた方々



宇都宮市 伊藤さんご家族
たまたま通ったらイベントを行っていたので立ち寄りしました。子どもたちに甲冑を着せることができてよかったです。



那須塩原市 大類さんご家族
宇都宮の実家に行くときに、いつも野菜をおみやげに買っています。安くて新鮮だし、最高ですね。ともなわりんごかわいい！

旬鮮やいた」と「農村レストラン つつじ亭」は、ともに「地産地消」をコンセプトとして、地元産のものを中心に提供しています。お越しいただいた方に、地元の商品を通して本市の良さを知っていただくよう、努力を続けています。

5月GWに多くのお客さまが来場

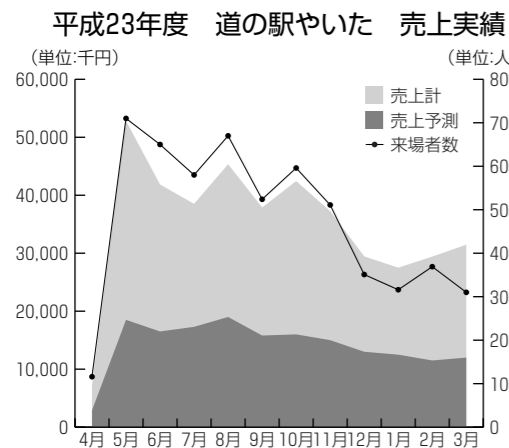
昨年一年間を通して、5月に最も多くのお客さまに来場いただきました。GWの初日にオープンしたことや、那須・塩原方面へお出かけの際の休憩地点として利用して頂いたことが挙げられます。

また、10月には、県内一の生産量を誇るりんごが店頭に並んだことや、紅葉見物のお客さまが多く立ち寄って頂けたことが挙げられます。

今後これらを検証し、運営に活かしていかなければなりません。

予想の1.5倍の売り上げ

オープンからまる一年が経過し、



当初の予想を上回り、多くの方々に来場していただいています。その理由としては、オープン当初ということ一度は行ってみようというお客様が、多くいたからではないかと思われます。今後は、来ていただいた方々にリピーターになってもらうことがとても大切です。

本年度は、来場者60万人、売り上げ2億6千万円を目標としています。そのために、趣向を凝らした工夫や、誠実な接客に努め、お客様に満足していただけるよう頑張っていきます。